ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

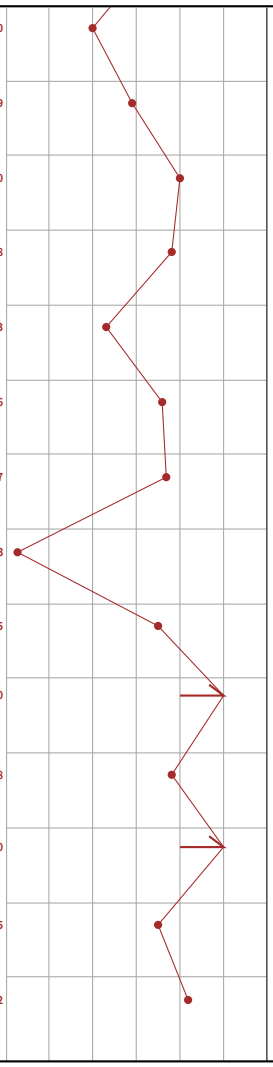
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	A2(測点No.61+0.30)	調査位置				北　緯	36 ° 22 ' 43.0000 "
発 注 機 関	栃木県佐野土木事務所			調査期間	2008-11-19 ～ 2008-11-26	東　経	139 ° 34 ' 04.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	79.78 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 40.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	29.45 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					盛土(粘土混じり砂礫)(BS)	暗褐～黒灰	中ぐらい		礫はφ2～50mm程度の角礫主体である 礫間は粗砂および粘土でややルーズに充填される 3.0～5.0m間,礫の混入が少なく,やや礫混じり粘土状を呈す 6.3m～8.5m間は黒灰色を呈す 7.8m付近にコア長L=20cm(推定礫径φ500mm前後)の岩塊が点在する 8.0～8.5m間は礫の混入が少なく粘性土主体である 8.5m付近から暗褐色を呈す		
	70.58	9.20	9.20								
	69.88	0.70	9.90		有機質シルト(MO)	黒褐		軟らかい	旧表土に相当する有機質シルトである		
	69.58	0.30	10.20		砂礫(GS)	褐灰	緩い		礫はφ2～50mm程度の亜円礫,亜角礫が主体である		
	69.18	0.40	10.60		細砂(FS)	暗褐	緩い		粒子微細,φ5mm前後の亜円礫少量混じる		
					粘土混じり砂礫(GS-C)	灰褐	中ぐらい		礫はφ2～50mm程度の亜円礫,亜角礫が主体である 礫間は粗砂および粘土で充填されている 16.0m程度以深より若干礫の風化がみられる 所々,局部的に粘土多く混じる部分がみられる 玉石は時折点在する程度で,φmax200mm前後と推察される 12.1～12.7m間は粘土の混入非常に多く,礫はφ2～30mm程度と小径となる 13.7m以深は飽和され含水多く,掘削水の逸水や孔壁の崩壊が若干みられる 堆積状態はルーズなところもみられ不均質である		11/24 13.70

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	3	10	15／30	15
1.45					
2.15	5	4	3	12／30	12
2.45					
3.15	3	2	3／14	8／34	7
3.49					
4.15	1／18	1／12		2／30	2
4.45					
5.15	1	3	6	10／30	10
5.45					
6.15	4	10	12	26／30	26
6.45					
7.15	6	5	14	25／30	25
7.45					
8.15	2	2	2	6／30	6
8.45					
9.15	1	1	1	3／30	3
9.45					
10.15	3	2	2／13	7／33	6
10.48					
11.15	19	11	15	45／30	45
11.45					
12.15	5	4	4	13／30	13
12.45					
13.15	15	15	20／8	50／28	>50
13.43					
14.15	19	15	9	43／30	43
14.45					
15.15	10	14	10	34／30	34
15.45					
16.15	6	7	7	20／30	20

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/21
						11/22

深度	含水比	液性限界	塑性限界	土質	色	硬軟	礫の状態	備考	N値	1回目	2回目	3回目	4回目	貫入量	日付
17				粘土混じり砂礫 (GS-C)	灰褐	中ぐらい		礫はφ2～50mm程度の亜円礫,亜角礫が主体である 礫間は粗砂および粘土で充填されている 16.0m程度以深より若干礫の風化がみられる 所々,局部的に粘土多く混じる部分がみられる 玉石は時折点在する程度で,φmax200mm前後と推察される 12.1～12.7m間は粘土の混入非常に多く,礫はφ2～30mm程度と小径となる 13.7m以深は飽和され含水多く,掘削水の逸水や孔壁の崩壊が若干みられる 堆積状態はルーズなところもみられ不均質である	16.15	6	7	7	20/30	20	
18									16.45						
19									17.15	7	9	13	29/30	29	
20									17.45						
21									18.15	13	15	12	40/30	40	
22									18.45						
23	56.83	12.35	22.95						19.15	8	12	18	38/30	38	
									19.45						
									20.15	6	8	9	23/30	23	11/24
									20.45						
									21.15	7	14	15	36/30	36	
									21.45						
									22.15	18	10	9	37/30	37	
									22.45						
23	56.18	0.65	23.60	砂混じり粘土 (CH-S)	茶褐		軟らかい	粘性大きく,含水中位である φ2～5mm程度の亜円礫が少量混じる 若干,砂混じりである	23.15	1/14	1	1/9	3/33	3	
24				粘土混じり砂礫 (GS-C)	灰褐	密な		礫はφ2～50mm程度の亜円礫,亜角礫が主体である 礫間は粘土および粗砂で比較的密に充填されている 泥砂岩質の風化礫混じる 掘削水の逸水は殆んどなく,孔壁の自立性は高い	23.48						
									24.15	10	11	14	35/30	35	
25									24.45						
									25.15	29	21/6		50/16	>50	
									25.31						
26									26.15	10	13	15	38/30	38	
									26.45						
27									27.15	19	22	9/1	50/21	>50	11/25
									27.36						
28									28.15	11	12	12	35/30	35	
									28.45						
29	50.33	5.85	29.45						29.15	12	15	15	42/30	42	11/26
									29.45